

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督



▶ 2 ◀

女子並みの小さな弁当や菓子パンに驚き



◆山田耕二(やまだ・こうじ) 1942(昭和17)年5月23日生まれ、73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

たちに「これだけしか食べないのか。栄養が全然足りてないぞ。お母さんに頼んでもっと大きなお弁当を作ってもらいなさい」と言って回った。

しかし次の日も、また次の日も変わらず、小さいお弁当のままの生徒がほとんどだった。私は「おい、お母さんに頼まなかったのか」と問いかけると「頼んだけど、これだけあれば十分ですよって言われちゃった」との返答が…。

ダメだ、親たちは分かっている。こうなったら直接話しかない、と家庭を訪問することにした。

生徒の親が持たせたお弁当にダメ出しをしたことがあつた。ラグビーは体と体がぶつかり合うスポーツ。体格が大きなウエイトを占める。

名古屋市立の西陵商(現西陵)は、1学年の男子が30〜40人しかいなかった。大柄な男子が何人もそろそろ私立校と

は訳が違つた。全国大会では「西陵商は軽量商」と陰口をたたかれるほど小さい選手が多かつた。そんな環境で勝つには、保護者にも栄養面で協力してもらわねばならない。

きつかけはとある日の昼休み。時間を有効活用するたため、昼休みにミーティングも兼ねて、ラグビー部全員で視聴覚教室で一斉に昼食を取ることにしていた。食事をとるに、生徒の日々のささいな変化を感じ取るいい機会だとも思つた。

いざ持ち寄つた弁当を見るに、驚いた。女子並みに小さなお弁当を持参した生徒や、

「軽量商」脱却へ弁当改革